

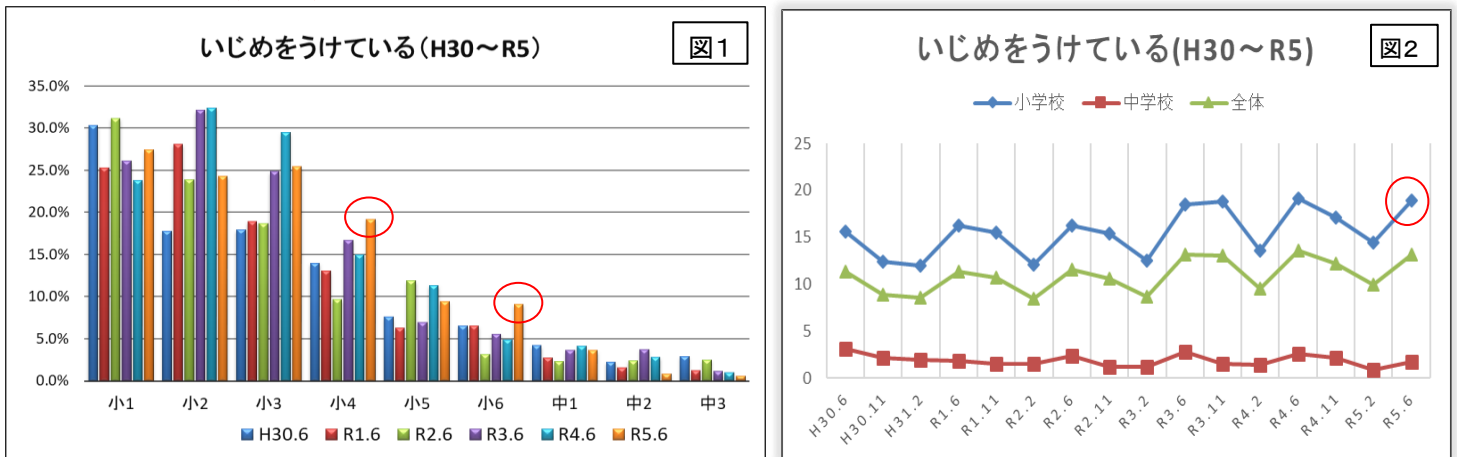
## 児童生徒のいじめに係る実態調査結果(令和5年6月)

丹波市教育委員会  
令和5年8月1日

## 1 「6月調査」についての全体概要

- ◎「いじめにあったとき誰に相談しますか」の問いでは、「相談はしない」と回答した割合が中学校において1.7%減少しており、相談のしやすい雰囲気づくり、SOSの出し方教育等の取組の成果が出ています。
- ◎「いじめを見たときどうしますか」の問いでは、**小中共に「担任の先生に伝える」が最も高い割合**になっている。児童生徒との**良好な信頼関係が築けている**証拠であり、今後も積極的に児童生徒の声を傾聴することが大切です。また、「助けたり励ましたりする」「いじめている人を注意する」の割合が、過去2回の調査よりも高くなっており、**各校における傍観者をなすための啓発や取組の成果**であると考えられます。
- ◎いじめの態様としては、「冷やかしかからかい」「無視、仲間外れ」「叩かれたり蹴られたりする」の出現率が高い傾向にあり、児童生徒を**見取る視点として留意すると共に、その兆候や様子をいち早く掴んで対応**することが大切です。

## 2 過去10年間で、小4、小6のいじめの出現率が一番高い。

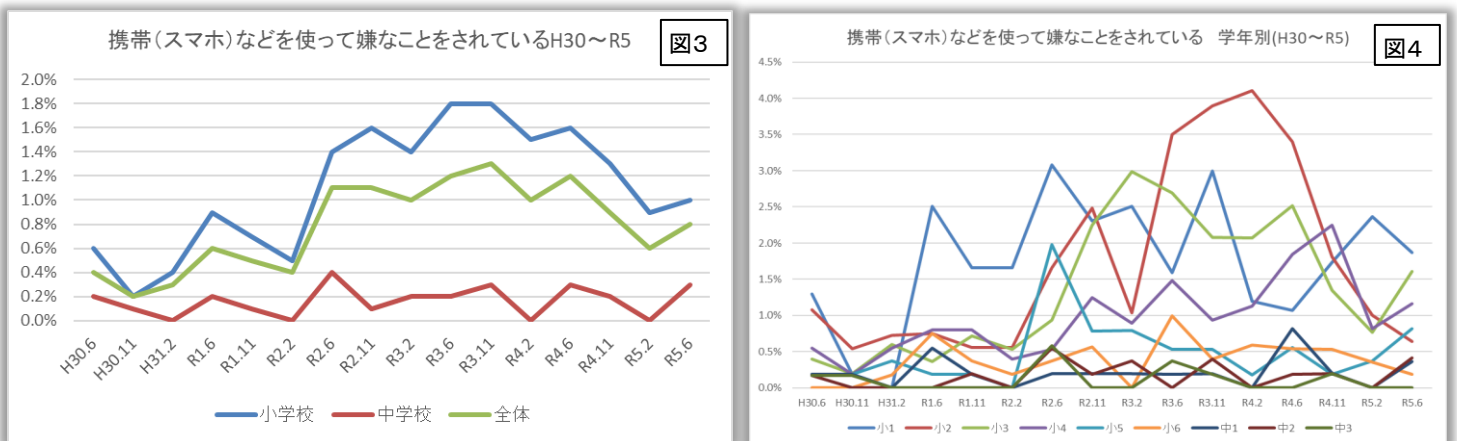


H30年からR5年までの6月実態調査の推移です。(図1)「冷やかしか仲間はずれ」など、どれかに当てはまる場合を「いじめを受けている」とカウントしています。例年同様、小学校低学年の出現率が高い傾向となっています。

今回、**小4が19.2%、小6が9.1%**と過去10年間で**最高の値**となりました。特に、小4の学年は、小1の入学当初に2か月間の臨時休業を経験し、多くの規制やストレスを抱えながらの学校生活でした。その影響なのか学級や人間関係の不安定さが表れていると考えます。

図2の経年変化においても、小学校で高い値が継続しています。いじめの兆候をいち早く察知するためのアセスメントを充実させ、認知できた時には、その指導を通していじめを正しく理解させ、解消率の向上を図るとともに、教職員の生徒指導実践力の推進を図ることが大切になります。

## 3 「携帯(スマホ)などを使って嫌なことをされている」が、増えている。



H30年以降、小学校では増加傾向を示しており、令和2年度からは**高い値**が継続しております。(図3)

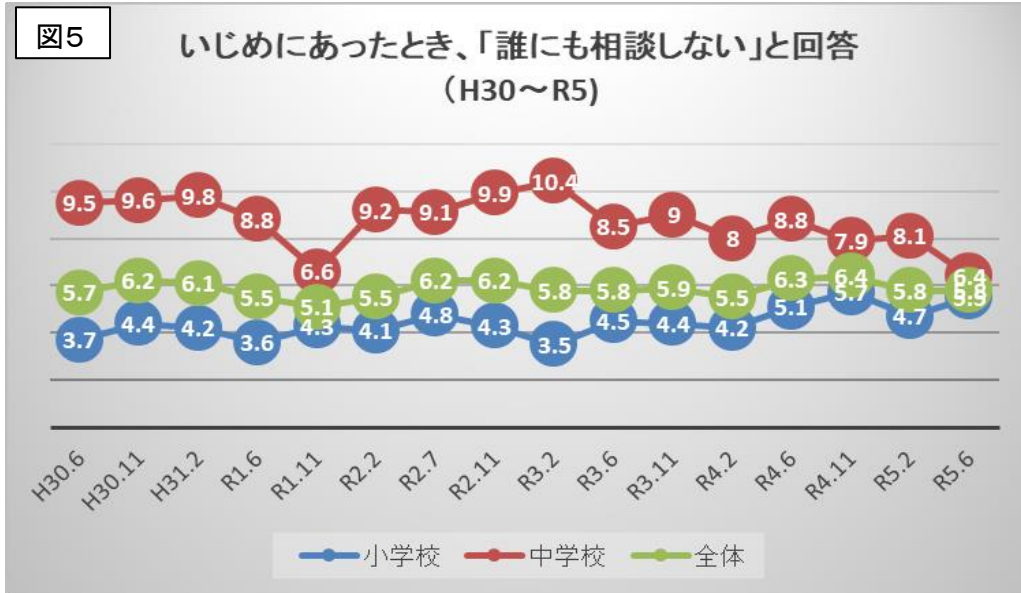
SNS、オンラインゲーム等への誹謗中傷、悪口の書き込みの事案やトラブル事案が報告されております。顕在化しにくいスマホ使用による事案は、人権侵害の可能性、大きなトラブルに発展する危険性などがあることを情報モラル教育や人権教育の中で指導していく必要があります。

図4の通り、令和2年度以降、小学校低・中学年で高い値を示しており、低学年での事案が増加している傾向にあります。また、市教委の調査によると小学校低学年のスマホ(携帯)の所持率が上がってきており、学校だけで対応できない状況です。

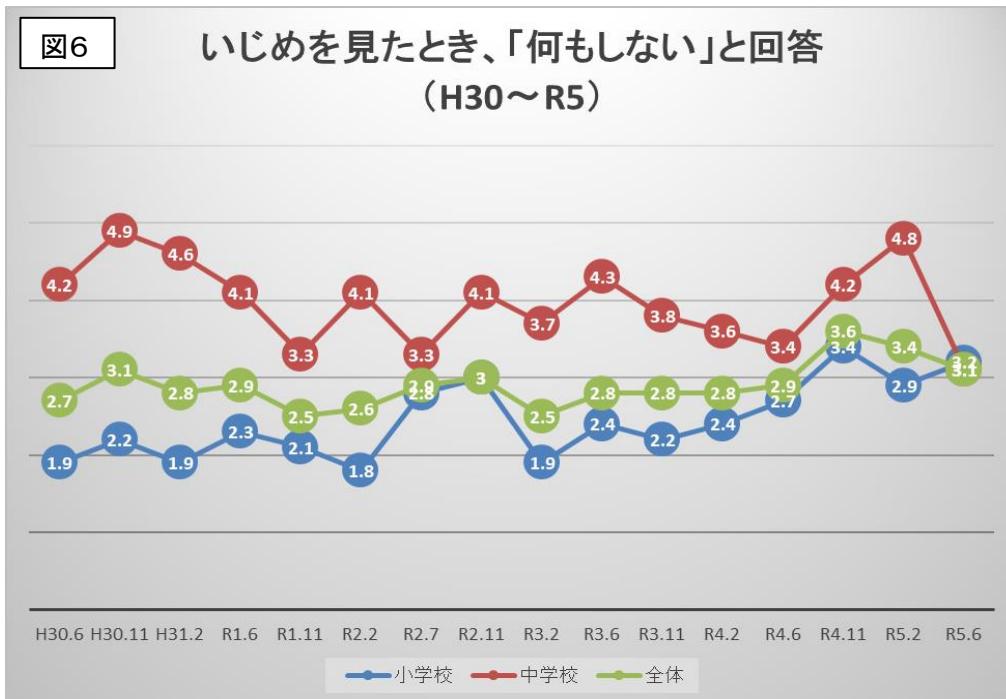
アンケート結果を踏まえて、学校における「課題未然防止教育」を推進し、保護者と一緒に情報モラル教育や家庭でのルールづくりに取り組む等、SNSトラブルの未然防止に向けた取組を充実させていくことが大切です。

#### 4 「誰にも相談しない」と「何もしない」と回答した小学生は増加している。

問5 あなたは、いじめにあったとき誰に相談しますか。(複数回答)



問6 あなたは、「いじめ」を見たときどうしますか。(複数回答)



「問5 あなたは、いじめにあったとき誰に相談しますか。」で「誰にも相談しない」と回答したのは、小学校5.5%中学校6.4%全体5.8%でした。「問6 あなたは、「いじめ」を見たときどうしますか。」で「何もしない」と回答したのは、小学校3.2%中学校3.0%全体3.1%でした。

全体としては、過去2回の調査時よりも改善傾向にあります。小学校においては、年々増加傾向にあります。いじめにあった時には、抱え込まず、些細なことでも相談すること、いじめを見かけた時には傍観者になることなく、自分にできることで構わないので行動する等の自己指導能力を身に付けさせるためにも、以下のような取組が必要です。

- ①児童生徒間で起こり得る些細なトラブルを察知し、適切な指導・支援を繰り返すことによって、教師と児童生徒との間の更なる信頼関係の構築を図る。
- ②児童生徒のよりよい横のつながりを深めるために、学校生活(特に授業中)において、失敗を恐れず、間違いやできないことを笑われない、むしろ、なぜそう思ったのかという児童生徒の考えについて児童生徒同士が互に関心を抱き合う雰囲気づくり・授業づくりを進める。

12年ぶりに改訂された「生徒指導提要」では、先生方の生徒指導実践力の向上とチーム学校による生徒指導体制を構築して、平常時から組織的な対応により「個人と集団」の成長と発達に働きかけることが求められています。

調査結果から、児童生徒が頼りにしているのは「担任、親、友だち」です。その中でも「担任」を頼りにして相談する児童生徒が数多くいます。傍観者を無くし、いじめを早期発見、早期対応するためにも学校組織をあげて取り組むことが重要です。